

toVO トウヴォ PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 7

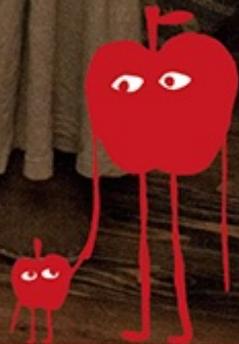
No.081 - 100号まで、残り19家族、19ヶ月



NO. **081**

2010.12.11

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





今号（82 家族目）のご家族 ▶

板橋 諒 さん・Tomi さん・そばゆ ちゃん・まめみそ ちゃん

撮影場所 ▶ 自遊木民族珈琲（野辺地町）

【インタビュー】

●2011年3月11日のことは覚えていますか？

▶諒さん「当時は2人別々の場所において、僕は山形にいました。休みの日で、弁当屋で注文した弁当を待っていた時に地震がきました。その後、当時勤めていたコーヒーの会社に行って、今後の対応について話し合いました。店舗にはまだ残っているお客さんもいました。」

▶Tomiさん「私は作業療法士として神奈川の病院に勤めていて、担当している患者さんの入浴訓練をしていました。地震が起きて、まずはお風呂場にいる患者さんたちの安全確保をしました。しばらくして病棟に戻ってからテレビで地震の大きさを知りました。私は仙台出身なので、まわりの人からは『実家は大丈夫なの？』と心配されて、徐々に事の重大さに気づいたという感じです。実家は海側ではないので津波の被害は免れましたが、家の中はぐちゃぐちゃになったようでした。家族とは『とりあえず大丈夫』という連絡は取れましたが、そこから数日間は連絡が取れなかったです。」

●震災後変わったことは？

▶諒さん「山形には原発事故で福島から避難してきた人たちがいたのですが、その様子を見て、心と故郷の野辺地のことを考えて、隣の六ヶ所には原子力施設があるのですごく不安になりました。就職する前からいずれは地元に戻りたいと思っていたけど、できるだけ早く帰りたいと思うようになりました。でも会社の都合もあるからすぐに仕事をやめる訳にもいなくて、地震直後は『行動しなきゃいけないけど行動できない』という状況でした。」

▶Tomiさん「神奈川は計画停電がありましたが、電気がないと何もできなくて、お金を持っていてもモノがなければ自分の力では何もできないんだと気が付いて『自分で何かを作れるようになりたい』と思うようになりました。震災の翌年に退職して、ヨガを勉強しにインドに行ったり、タイマッサージに出会ったり、オーストラリアでパーマカルチャーを学んだり...色々なことを勉強しながら3年ほど海外で過ごしました。」

▶諒さん「会社をやめた後、野辺地を拠点に何かしたいと思っていたけど、何をしようかすぐには思いつかなかったんです。同時に、故郷が福島の子供の事故の二の舞にならないようにしないと決まっていたとも思っていました。原発事故があってから西日本に移住した人は多いですが、そういう人たちの話を聞きに、2人で鹿児島や沖縄に行ったり、海外にも行きました。オーストラリアのバイロンという村がとても良くて、住民が自分たちで意思決定して、作れるものは自分たちで作っていて、何よりみんな楽しそうに生活していました。一方日本のことを考えると、何かに依存しな

がら生きている人が多いように感じました。他人の生き方を変えることは難しいですが、まずは自分たちが出会った『こういう素敵な生き方があるよ』というのを野辺地で実践して、まわりに見せたいと思ったんです。

元々コーヒーが好きだったので、質が高く、尚且つ環境に良いものをチョイスしたコーヒー屋さんをやろうと決めました。店の裏が畑なので、最近は少しずつうちで獲れたものを使ってお菓子を作っています。あまり作り置きはせず、ひとつひとつ丁寧に作るというスタンスでやっています。」

●10年後のご家族のイメージは？

▶諒さん「今年から地域に向けた活動を少しずつ始めているので、それが形になって、完結するところまで進んでいけばいいですね。」

▶Tomiさん「自分たちの家族のイメージはあまり湧かないなあ。漠然としているけど『これは自分で作れるからお金をかけなくてもいいな』とか『作ったあと土になるところまで考える』とか、そういう人たちが増えて、モノを作る人が地球のことをもっと考えるような時代になればいいなって思います。」

▶諒さん「『こうしたいから、そのために行動する』というよりは『なにか変化が起こったら、それに上手く対応する』という生き方が自分たちらしいと思うので、何かに縛られることなく、自分たちらしく生きていきたいですね。」

【取材後記】「自遊木民族珈琲」というお店の名前をはじめて聞いた（見た）時、どういう意味なんだろうという疑問と、面白い名前だという興味が同時に湧きました。これを読んで気になった方は、ぜひとも野辺地へと足を運んでみてください。幾重もの意味が込められたこの屋号には、板橋さんの強い意志を感じます。店内には優しい時間が流れていて、美味しいコーヒーとかわいい2匹の猫によって、つつい長居してしまうこと請け合いです。(今号No.081のインタビュー：工藤文昭)

【寄付総額】2011年6月～2018年10月29日まで「¥7,059,342」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願い致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。